



2021.10.6  
第176号

**発行** 村議会 支会 支会  
町議 支支  
市協 津支  
教委 麻沼  
県連 北耶両  
福教連

**編集** 福島県教育庁  
津教育事務所

**編集協力** 小・中学校長会

先生方をお願いしたこと



湯川村教育委員会  
教育長 佐原 健一

今年度もコロナ禍で「新しい生活様式」のもとでの教育活動がスタートし、半年が過ぎる。湯川村でも、小学校の運動会を秋に延期するなど、子どもたちの健康安全を第一として、確かな学びを保障するために校園長会、学力向上推進会議を核として、保幼小中の学びをつなぐ「ゆがわっ子育てプラン」について協議を進めてきた。各学校では、このプランと研究主題を関連させながら教育実践に取り組んでいる。これまでに、村学

力向上推進会議主催の授業研究会及びICT研修会を各二回開催することができた。また、今年度各学校に導入したタブレット端末については、初年度でもあり、「まず使ってみる」ことを目標とした。各学校ともタブレット端末の活用にも意欲的に取り組み、子どもたちの学びを豊かなものとしていることが、授業参観や研究協議会の中で確認された。村教育委員会にとってもこの上ない喜びである。同時に、各学校の校長先生のリーダーシップのもと、各先生方の献身的な努力により、

子どもたちはコロナ禍でも落ち着いた学校生活を送っており、充実した学習ができていることに感謝している。

このような前向きな先生方の集団だからこそ、全体研修会の席で次のことをお願いした。「湯川村の子どもたちは、どの子も伸びるのだという強い信念をもって、一人一人の心に寄り添い、深い教育愛で指導することで、知・徳・体の力と自己有用感・自己肯定感を高めてほしい」と。

先生方の指導により、子どもたちが「湯川村の小学校に通えてよかった」「湯川中学校を卒業できてよかった」と感じ、高校、大学、社会人になった時、自分は「湯川村出身です」と、自信と誇りをもって言える人間に成長してくれることを私は願っている。村教育委員会としても教育環境のさらなる充実に向けていきたい。

前期の所長(管理)訪問から

前期の所長(管理)訪問は、六十二校を訪問しました。各校においては、新型コロナウイルス感染症防止の視点から、学校行事を始めとする教育課程を見直すなど、様々な工夫を施しながら教育活動が展開されていました。

ICTを活用した授業改善に取り組む先生方の姿からは「子どもたちの学びを止めない」という強い意志を、明るく元気に活動する児童生徒の姿からは「学ぶことのできる喜び」を感じることができました。また、昨年度課題であった「多忙化解消」については、各校とも出勤時刻を適正に管理し、時間外勤務は大幅に減少しています。これは、積極的に校務や部活動の見直しを図っていただいた成果だと考えています。

一方、メンタルヘルスについては課題が見られました。ストレスや負担を感じ、体調不良を訴える先生が、特に小学校において見られました。課題のある児童や保護者対応等について、強い責任感から一人で抱え込んでしまう傾向があるようです。学校の課題は、全て学校全体で解決するものと捉え、早期段階からチームでの対応をお願いいたします。

また、今年度に入り、わいせつ・セクハラ等の処分案件が複数発生しています。校内服務倫理委員会を中心に、目的を明確にしながら、更なる研修の充実を図っていただきたいと思えます。「自校からは絶対に不祥事を出さない」という強い決意を共有していきましょう。

教育事務所といたしましては、児童生徒や教職員が心身ともに健康で充実した学校生活を送ることができるよう引き続き支援してまいります。

**令和3年度 会津教育事務所 指導の重点【後期】**

**会津の強み 【これまでの学校訪問や各校の学力向上の取組から】**

- 1 児童生徒の興味・関心を高め、思いや問いを引き出しながら「めあて」を設定する授業が多い。
- 2 ねらいを達成させるために児童生徒の思考の時間を確保し、様々な言語活動やICT機器等を活用した活動を取り入れ、考えを広め深める授業の工夫が多く見られる。
- 3 学びを支える学級集団づくりに取り組むとともに、個に応じた補充的・発展的な学習の機会を設けている学校が多い。
- 4 家庭学習の習慣が身に付き、計画的に家庭学習に取り組む児童生徒が増加している。
- 5 学校ぐるみでいじめや不登校の未然防止、及び将来的な社会的自立を目指した心温まる指導が行われている。

**会津の課題 【令和元年度、令和3年度の全国学力・学習状況調査結果等から】**

- 1 算数・数学と英語が、全国平均正答率を下回っている。
- 2 自分の考えや意見を言葉で説明したり、記述したりすることが苦手な児童生徒が多い。
- 3 不登校児童生徒が年々増加傾向にある。(1,000人あたりの出現率が全国平均を上回っている。)
- 4 平日にテレビゲーム(スマホを含む)等を行う時間が増加している。

**目標1 授業での言語活動の充実**

**目標2 新規不登校児童生徒の出現防止**

**指導の重点**

- 1 主体的に追究・解決できる時間を確保する。
- 2 まとめ・振り返りの時間を確保する。
- 3 授業と家庭学習を連動させる。  
※ 「授業スタンダード」、「家庭学習スタンダード」  
「English Compass」の更なる活用

**指導の重点**

- 4 教師による「居場所づくり」と児童生徒による「絆づくり」を促進する。
- 5 組織的な早期発見、早期対応による未然防止に努める。
- 6 個別の支援計画をもとにチームで支援する。
- 7 学習機会の拡充とその情報提供に努める。

**授業力・学級経営力のスキルアップに!!!**

～「ステップアップAizu(授業サポートセミナー)」に参加しませんか～

主催 会津教育事務所

会津教育事務所では、指導の方法やスキルを身に付け、授業力や学級経営力の向上を図ることをねらいとして、先生方(教諭・講師)を対象とした「ステップアップAizu」を開催しています。

8月は、新型コロナウイルス感染症防止のためweb会議システムを用いたオンライン研修を実施しました。音楽科のセミナーに参加した先生方からは「楽しみながら教材研究ができた」「子どもたちにも鑑賞が好きになってもらえるだろうと感じた」「オンラインでも講師の先生や参加者となつながら楽しく研修ができた」等の感想がありました。実施案内を御覧になり是非御参加ください。



オンライン研修の様子

**【参加対象者】**

- 域内の小・中・義務教育学校の教職員(希望者)

**【講師】**

- 会津教育事務所職員

**【定員】**

- 12名程度

**【時間】**

- 15:30～16:45

**【会場】**

- 会津若松合同庁舎

**【今後のセミナー(令和3年10月～令和4年1月)】**

- 国語科授業づくりのポイント～説明的文章～
- 小学校外国語科・外国語活動～授業づくりのポイント～
- 中学校外国語科～授業づくりのポイント～
- 社会科授業のポイント～単元づくりの工夫～
- やってみよう! ケース会議～チームで支援を進めるコツ～
- どうしたら良いの? 道徳科の“量的確保”～持続可能な授業づくりのコツ～
- ICTを利用した効果的な授業の在り方～算数科・数学科編～
- 小中学校別 訪問を通じた「よい授業」(算数科・数学科)の提供
- 小学校“楽しい”音楽科の授業づくり～合唱編～



※ 詳細は実施案内参照

## 我がまちからの情報発信

柳津町教育委員会

## 大噴火被害からの復興“只見川火焰街道”の町

現在、柳津町の「縄文館」では、展示替えを行いながら、リニューアルに向けての準備等を進めています。

縄文館は、道の駅「会津柳津」と一体的な施設である「ほっとinやないづ」と、出入口を共有する展示施設です。飲食コーナーや売店、足湯の陰に隠れてしまい、暗めの照明のせいもあって、なかなか注目されにくい施設です。しかし、縄文中期から後期にかけての石生前遺跡から出土した大型の火焰型土器等を展示している“注目すべき”施設です。また、町内の遺跡から出土した土偶や首飾り、足形などの土製品はもちろん、様々な石器も展示しています。

石生前遺跡出土品の中には、横S字や逆S字の文様の土器があり、火焰型土器の特徴であるニワトリの頭のような「鶏頭冠突起」に発展する過程を追うことができる資料があり、注目されています。今まで、火焰型土器は、新潟県方面から会津へ伝わったと考えられていましたが、この資料から、そのもととなるものが、「会津の西部地域で誕生したのではないか」という考えをもつ研究者も出てきました。

また、今から約5,400年前に、会津はもとより新潟県津川町（現阿賀町）付近までの縄文集落が壊滅的な被害を受けたことが考えられる金山町の「沼沢火山」の大噴火からの復興を物語るのが、石生前遺跡をはじめとする本町の遺跡です。

縄文館には、毎年度、本町の小・中学生が社会科（歴史）の見学学習に来てくれています。現在は、係員を配置していませんが、事前連絡があれば、公民館職員（学芸員）が解説することも可能です。入館料無料ですので、斎藤清美術館（有料）とともに、町を訪れる多くの方に、ぜひご覧いただきたい施設です。



「縄文館」火焰型土器等の展示

## ようこそ！会津自然の家へ

## 「心のケア事業」のネットワーク

自然の家では不登校児童生徒の心のケアを行いながら、健康な生活ができるようになるためのきっかけづくりに取り組んでいます。「心のケア事業」は市町村教育委員会と連携し、各小中学校や不登校対応教室から参加者を募り6月に3回開催しました。自分で活動したいプログラムを見つけ「やってみたい」「やってみたら楽しかった」と思えるような体験活動を行いました。

6月に参加した小学生が「釣り」を体験し、見事フナを釣り上げました。釣りが終了すると「ゲームで釣った魚とは比べものにならないくらい興奮した」とみんなの前で感想を発表していました。親子で参加した保護者は「子どもが楽しめたことはもちろんですが付き添っていた親の心のケアもしていただいた気がして、とても楽しい時間を過ごすことができました」と話していました。

11月にも計画しており、子どもたちがさらに深く自然との触れ合いや参加者同士の交流の中で普段の生活とは違った気付きがあればと思います。

不登校児童生徒の数値が増える中、自然の家がこのエリアの自然環境や体験活動を通して、できることを模索しています。学校は子どもに寄り添いながら復帰へのアプローチに取り組んでいます。自然の家でそうした子どもたちを親、学校、市町村とネットワークをつくりながら支援していくことができればと考えます。



自然環境を生かした体験活動の様子



各学校の特色ある取組紹介

総合的な探究の時間(きたかた☆グローバル☆リサーチ)について

県立喜多方高等学校



和紙製作体験

統合校として令和3年4月に開校した新生喜多方高等学校における特色の一つに総合的な探究の時間(きたかた☆グローバル☆リサーチ)における取組が挙げられます。地域(喜多方市)を学びのフィールドとし、地域における実生活や実社会と自己の関わりにSDGsなど世界規模の視点を加えながら、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現する力の育成を目指しています。

本校には学校と地域をつなぐ役割を担う「地域コーディネーター」が配属されており、学校と外部のつなぎ役として大きな役割を果たしています。

コロナ禍の中、地域を学びのフィールドとした活動は理想どおりとはいきませんが、現在のところ以下のような活動を

実施・計画しています。今後も地域の皆様の御協力を得ながら、生徒が社会に自ら参画する意欲を育むとともに、地域を元気にする活動、本校ならではの取組を行っていきます。

○ 夏季休暇 地域体験プログラム

【プログラム①】「喜多方の名産アスパラの現場を体験する」

【プログラム②】「循環型社会を目指して～SDGsの最前線～」

【プログラム③】「地域コーディネーターと回る西会津①

～アート編～」

【プログラム④】「地域コーディネーターと回る西会津②

～小商い編～」

○ 市役所への提言

(今後実施予定)

市役所職員による取組や地域が抱える課題について学び、高校生の視点からその解決策を考える。



アスパラ栽培体験

学園構想への第一歩

会津若松市立河東学園

「河東学園構想」の実現に向けて、4年前、河東学園小学校の敷地に河東学園中学校が移転しました。そして今年度、会津初の義務教育学校「河東学園」が誕生しました。地域や学校が一体となって子どもたちを育てていくことを目指しています。

歩み始めたばかりですが、義務教育学校の利点を生かした特色ある取組を紹介します。

一つ目は、6年生の教科担任制です。国語は1組担任、算数は2組担任、社会、理科、英語、図画工作は後期課程担当教員がそれぞれ授業を行っています。6月末の6年生へのアンケート調査では95%以上の児童が「楽しい(面白い)」「少し楽しい(少し面白い)」と答えていました。



校舎全景

二つ目は、6年生からの希望制による部活動参

加です。曜日を限定し、保護者の同意のもとで実施しています。参加している児童のほとんどが後期課程生徒と同じ終了時間まで頑張っています。

今後、従来の校舎をそのまま使用していることから生じる教員や児童・生徒の移動時間、授業時間が45分(前期課程)と50分(後期課程)のための時程のずれ、そして小学校と中学校の教員の指導法等の違いをすり合わせていくことを工夫していきたいと思えます。

「未来を生きる子どもたち」のために真の義務教育学校としての姿を創ってきたいと思います。

※ 義務教育学校の修業年限は9年で、前期課程の6年(小学校段階に相当)と後期課程の3年(中学校段階に相当)に区分されます。



6年生入部説明会

「ふるさと教育」の実践

金山町立金山小学校

金山小学校では、「金山町のふるさと教育」として郷土のよさを理解し、積極的に地域と関わり、地域を元気づけられる児童の育成をめざし教育活動を進めています。

1 テーマ学習及び栽培活動の実践

金山町の特産である「沼沢湖のヒメマス」や「赤カボチャ」などについて、総合的な学習の時間を中心に追究活動を行っています。また、赤カボチャを含めた様々な野菜を「金山ファーム」と名付けた学校農園で栽培し、収穫して食べる活動まで行います。「金小みんなの田んぼ」ではもち米栽培活動を行い、収穫したもち米は餅つきをして食べるほかに、販売まで行います。児童の手作り案山子による鳥獣害対策も行っています。体験を通したより深い学びにつなげています。

2 児童の想いから生まれた地域を元気にする活動

児童自ら、自分たちができることで地域を元気にしたいという想いをもち、地域のお年寄りや最寄りのJR只見線会津

川口駅のお客さんに手作りクッキーや町伝統の蜜ろうそくを贈るといった活動をしてきました。現在はコロナ禍により実施できずに残念ですが、保護者や地域、町にも協力いただいで行ってきた活動です。コロナ禍が収束したら、ぜひ再開したいと心待ちにしています。



全校生で案山子作り